0309873HA8702

MITSUBISHI

三菱クリーンヒーター®
〈密閉式石油ストーブ〉

形名
VKB-501M
VKB-501MD（シャッター付）

据付工事説明書　　販売店・工事店さま用

■ 据付工事を始める前にこの据付工事説明書をよくお読みになり、正しく安全に据付けてください。
■ 据付工事は販売店・工事店さまが実施してください。
お客さま自身で据付工事をしないでください。
（ご自分で据付工事をされ、不備があると排気ガス漏れ、感電、火災の原因になります）
※お客さま自身で据付工事をされた場合の故障・事故に関しては保証できない場合があります。
■ 据付工事部品は必ず付属部品および当社のシステム部材をご使用ください。
（付属部品およびシステム部材を使用しないと故障の原因となります）
■ 買い換えの場合も新しい給排気部品、ゴム製送油管を使用して据付工事を行ってください。
（排気筒はずれ検知装置が誤作動したり、排気ガス漏れ、油漏れの原因になります）

もくじ

		ページ
安全のために必ずお守りください	火災、事故防止等安全について	1～5
開梱	付属部品および使用箇所の確認	6
油タンクの据付け	条件、屋内送油管の取付けかた	7～8
据付方法	壁穴工事、標準給排気工事	8～12
延長給排気工事について		13～14
試運転（試運転モードによる試運転のしかた）		15～16

安全のために必ずお守りください

●誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して説明しています。

⚠危険	作業を誤った場合に、据付工事作業者または使用者が死亡や重傷などに結びつくもの
⚠警告	作業を誤った場合に、据付工事作業者または使用者が死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの
⚠注意	作業を誤った場合に、据付工事作業者または使用者が傷害または家屋・家財などの損害に結びつくもの

●図記号の意味は、次のとおりです。

⃠	禁　止
❗	指示に従い必ず行う

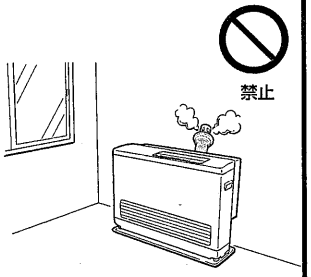
安全のために必ずお守りください

据付場所の確認

据付場所を決めるときはお客さまと良く相談してください。

⚠危険

屋内給排気厳禁
お客さまご自身では据付工事をしない



（異常燃焼し、一酸化炭素中毒の原因になります）

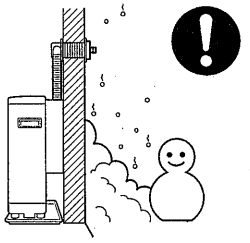
⚠警告

据付けや移動は販売店へ依頼すること

（お客さまご自身で据付工事をされ、不備があると排気ガス漏れ、感電、火災の原因になります）

据付けは火災予防条例、電気設備に関する技術基準、電気工事は指定の工事店に依頼するなど法令の基準を守る

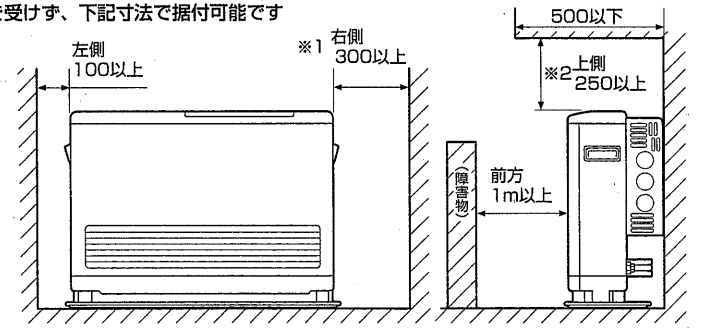
給排気筒トップは閉そくしない場所に設置
積雪の多いときに、給排気筒トップの周りが雪でふさがれない場所に設置してください
また、板などによる「雪囲い」は給排気の妨げになるのでおやめください



（運転中に排気ガスが室内に漏れて危険です）

⚠注意

可燃物との距離を離す
製品の周囲の可燃物・障害物との離隔寸法を確保する
この製品は（財）日本燃焼機器検査協会の防火性能認証を受けたものですので上側600mm以上の制限を受けず、下記寸法で据付可能です



付属の置台の上に据付ける。
※1. 左側・上側のいずれかで、裏面点検のため300mmが確保できる場合は、100mmまで近接可能です。
※2. システム部材の中折れフィルター（VGZ-17FT）を使用すれば、150mmまで近接可能です。
●本体後面の空間距離は「10cm以上」必要です。本体付属の背面カバーで「10cm以上」が確保できます。
●本体後面には必ず背面カバーを取付け、背面カバーと壁との間にはすき間をあけないでください。
（カーテンや紙などが入りますと、こげたり、においなどの原因となります。）
●送油コックの開閉、電源プラグの抜き差しが容易にできるようにしてください。

⚠注意

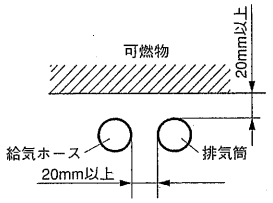
次のような場所には据付けない
- ●水平でない場所、不安定な場所
- ●不安定なものを乗せた棚などの下
- ●可燃性ガスの発生する場所またはたまる場所
- ●付近に燃えやすいものがある場所
- ●階段、避難口などの付近で避難の支障となる場所
- ●温室、飼育室など人のいない場所

（火災や予想しない事故の原因になります）

●浴室など湿気の多いところに据付けない

（感電の原因になります）

排気筒と可燃物の離隔距離



改造しない

（火災・不完全燃焼の原因になります）

給排気について

⚠警告

床下給排気禁止
必ず屋外に排気してください

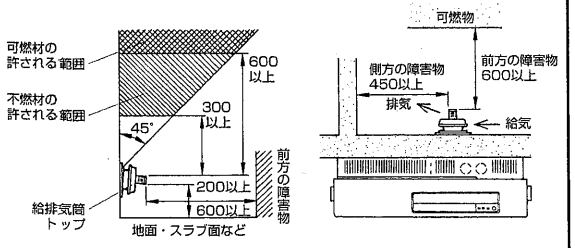
（排気ガスが室内に漏れ危険です）

給排気筒を確実に接続
給排気筒を確実に接続し、しっかり固定してください

（風、振動、衝撃などで、はずれたりすると運転中に排気ガスが室内に漏れ危険です）

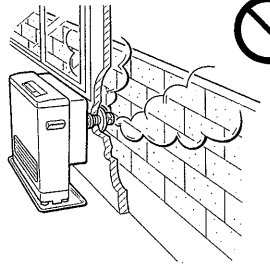
⚠注意

給排気筒トップは、十分開放された空間に取付ける
下図の寸法は防火上の必要寸法です



単位(mm)

排気ガスを滞留させない
給排気筒トップは、周辺に建築物の突出物等や障害物のあるところには取付けない



（排気ガスが給気側へ流入すると運転停止〔E-01，E-13〕することがあります）

⚠注意

排気ガスが室内(隣家も含め)に入りやすいところには据付けない

（室内空気が汚染されます）

高層建築の集合煙突を利用しての給排気工事は絶対行わない

（運転停止したり、不完全燃焼の原因になります）

排気ガスに注意
愛がん動物や植木などに排気ガスをあてない

（動物が死んだり、植木が枯れる原因になります）

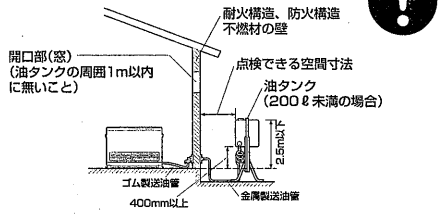
ゴム製送油管の屋外使用禁止
ゴム製送油管は屋外で使用しない

（ひび割れを生じて油漏れの原因になります）

2台以上据付ける場合は各々の給排気壁穴の間隔は、水平方向に500mm以上、または垂直方向に１ｍ以上離すこと

（排気ガスの給気口への吸い込みによる運転停止や不完全燃焼の原因になります）

油タンクとの距離を離す



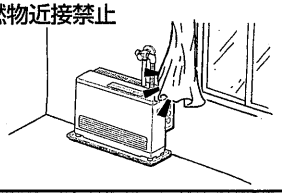
エアーかみ防止のため、必要タンク落差(400mm以上)を確保してください。
必要に応じて油タンクの下にブロックなどを置いてください。

給排気筒の点検

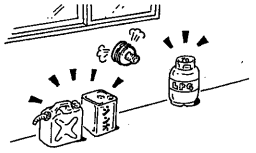
（取付けが終ったら、もう一度点検してください）

次のような取付けは、危険であり、不完全燃焼をおこすおそれがあるので点検する

可燃物近接禁止



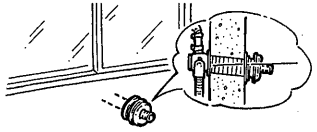
給排気筒トップ付近の危険物近接禁止



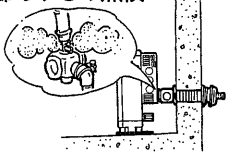
ビニール袋などを給排気筒トップにかぶせない

（異常燃焼の原因になります）

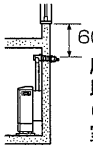
給排気筒トップは屋外に向かって下り勾配のこと



接続部のゆるみ点検



給排気筒トップと開口部との距離は離す



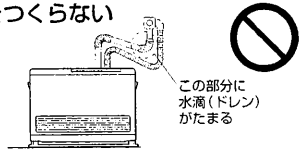
周囲の開口部から下方600mm以上、側方150mm以上離す
(暖房機を据付けた部屋の窓や浴室の窓等は除く)

安全のために必ずお守りください

延長給排気について

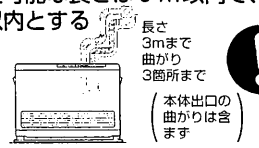
⚠注意

排気筒の途中に水滴(ドレン)がたまるようなへこみ部をつくらない



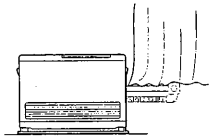
(排気ガス中のドレンが排気筒内にたまり、運転停止や、不完全燃焼の原因になります)

給排気の延長可能な長さは 3 m以内で、曲がり 3 箇所以内とする



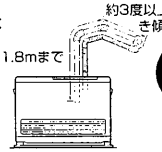
(これ以上長く延ばしたり曲がりが多くなりますと燃焼空気が不足し、運転停止や、不完全燃焼の原因となります)

カーテンなど可燃物を排気筒に接触させない



(火災の原因になります
排気筒の近くにカーテンなどの燃えやすいものがある場合は、100mm 程度以上離すか、配管カバー[システム部材] を使用してください)

排気筒のドレンもどり長さは 1.8m 以内とする



(燃焼によって発生する水滴[ドレン]のもどりは、排気筒長さが1.8m以上になると、製品内部にドレンがもどり、燃焼器を腐食させることがあります。そのために1.8m以上の排気筒には給排気筒トップに向って約 3 度以上の下向き傾斜をつけてください)

据付け前のお願い

給排気筒トップの先端(排気口) からドレン (水滴) が池に落下したり腐食させるおそれがあるところには取付けない

特殊環境(温泉害、塩害、大気汚染、化学薬品を使用する場所) には据付けない

(腐食・劣化の原因になります)

標高 1500m 以上の高地では据付けない

(空気不足により運転停止をしたり不完全燃焼の原因になります)

●直射日光の当たる場所に据付けない

●右側面に壁がある場合は「据付工事前のお願い」チラシに基づいて、現在温度検知サーモの位置を移動してください
(室温調節が正しく行われないことがあります)

熱に弱い床面は保護する
熱に強いマット類を敷いてください
(吹出口前方の床面は40～50℃程度になります。床面によっては変色したり、変形・収縮することがあります)

毛足の長いじゅうたんの上に置く場合は、安定のよい敷き板などを敷いて水平にする

(製品が不安定になったり、じゅうたんが変色することがあります)

小さなお子さまが触れるようなところに取付けられる場合は、トップガード、グリルガード (システム部材) をおすすめください

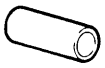
(やけどの原因になります)

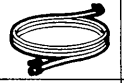
エアーフィルターの出し入れのための製品の上方空間が、150mm～250mm の場合は、中折れフィルター (システム部材) を使用してください

中折れフィルター
(VGZ-17FT)

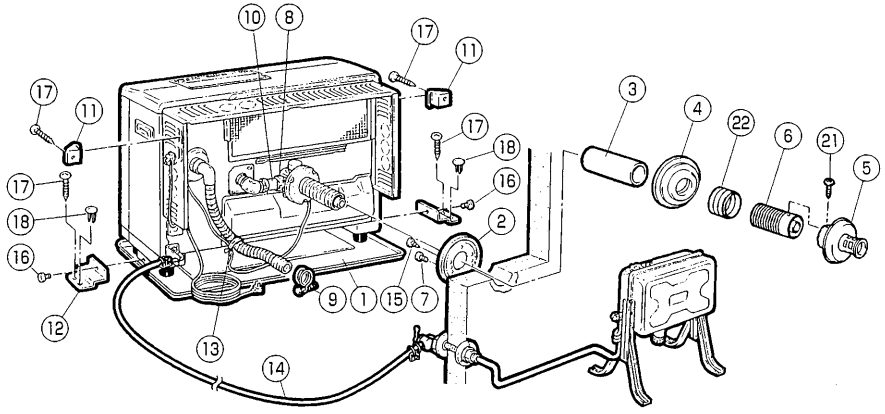
開梱

付属部品の確認

①置台……1個	②室内傾斜フランジ…1個	③絶縁パイプ…1個 	④室外傾斜フランジ…1個	⑤トップフード…1個
⑥中間パイプ…1個 (本体に付属)	⑦給排気筒トップ 取付ネジ……3本 (皿ネジ)	⑧C形ストッパー…2個 (本体に取付けてあります)	⑨給気ホースバンド…1個	⑩補助パイプ…1個 (本体に取付けてあります)

⑪壁固定部品 …2個	⑫床固定金具 …2個	⑬コードバンド …2本	⑭ゴム製送油管 (1m)…1本 (締付金具…2個) 	⑮室内傾斜フランジ 取付ネジ…3本	⑯床固定金具 取付ネジ…2本 (黒・タッピン4×8)
⑰壁・床固定用 ネジ…4本 (木ネジ)	⑱畳用取付 びょう…2本	⑲延長給排気用はずれ検知リード線…1本	⑳リードクリップ…2個 ㉓サーモカバー取付ネジ …1本 (木ネジ)	㉑トップフード 取付ネジ…1個 (中間パイプに付属)	㉒壁厚対応スペーサー …3個 (壁厚が134~81mmのとき使用します)

付属部品の使用箇所

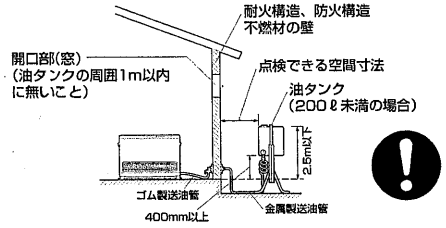


※⑲⑳㉓は延長部品のためこの図では表示していません。

油タンクの据付け

油タンクおよび必要なシステム部材の据付けは、各々に同梱の説明書に従ってください。

条　件　⚠注意　油タンクとの距離を離す

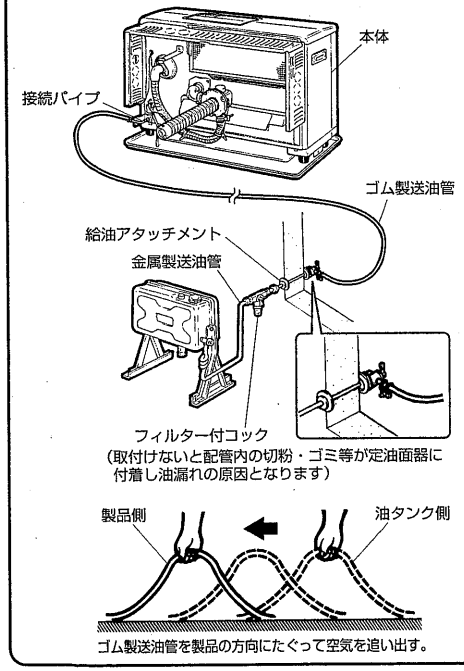


エアーかみ防止のため、必要タンク落差(400mm以上)を確保してください。必要に応じて油タンクの下にブロックなどを置いてください。

- 付属のゴム製送油管が短い場合は当社サービス部品のゴム製送油管 3m 品（M45508260）をご使用ください。
  油タンク屋内設置の場合 製品 ― 油タンク間
  油タンク屋外設置の場合 製品 ― 給油アタッチメント間
- 油タンクはアンカーボルトで床に固定するなど、転倒防止の処置を必ず行ってください。
- 油タンクは、畳・じゅうたんなどの上に据付けないでください。
- 油タンクは、製品との間に防火上有効な壁などがない場合には2m以上離してください。
- 油タンク落差は、左図のように400㎜以上、2.5m以下としてください。低すぎると油が製品に供給されず、また高すぎると定油面器内で灯油がしゃ断され燃焼を停止したり、定油面器から油がこぼれることがあります。大型タンクを戸外に据付ける場合も、左図の落差を守ってください。
- 油タンクの据付けは各地の火災予防条例に従ってください。わからないときは、お近くの消防署におたずねください。

屋内送油管の取付けかた

屋内送油管はゴム製送油管または銅パイプを使用することができます。



ゴム製送油管を製品の方向にたぐって空気を追い出す。

ゴム製送油管の取付けかた

1. 付属のゴム製送油管を製品の接続口と給油アタッチメントの接続口に差し込み、締付金具で確実に締め付けます。

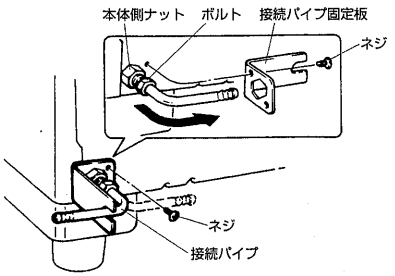
⚠注意

ゴム製送油管の屋外使用禁止
ゴム製送油管は屋外で使用しない
(ひび割れを生じて油漏れの原因になります)

2. ゴム製送油管を製品側へたぐって空気を追い出します。

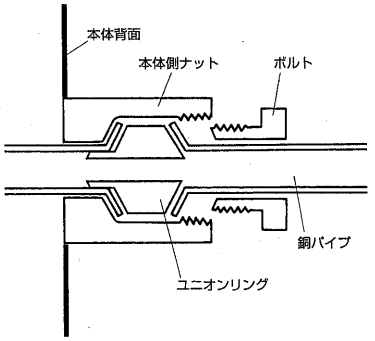
お願い

- ゴム製送油管の先端を、極端に曲げて、「ゴム製送油管接続口」に接続すると、ゴム製送油管がひび割れを生じて、油漏れの原因となるので行わないでください。
- ゴム製送油管の途中が山形になったり、もつれていると、ゴム製送油管の中に空気がたまって油が流れないことがあります。



〈給油口を正面から見て右側配管する場合〉

1. 接続パイプ固定板のネジをはずし、固定板をはずします。
2. 本体側のナットをスパナ等で固定します。
3. ボルトをゆるめ、接続パイプを180°回転させ、ボルトを締め付けます。
   (締付トルク：19.6N・m)
4. 1.ではずした接続パイプ固定板を左図のように取付けます。



銅パイプ(外径φ8mm)の取付けかた

1. 接続パイプ固定板をはずします。
2. 本体側のナットをスパナ等で固定し、ボルトをゆるめて接続パイプをはずします。
3. ボルトを銅パイプに通し、先端をフレア加工します。
   - 銅パイプはシステム部材のVKZ-20を使用してください。
4. ユニオンリングが傾かないよう銅パイプを差し込み、ナットを固定して、ボルトを締め付けます。
   (締付トルク：19.6N・m)

お願い

- 据付け後、接続部から油漏れがないか確認してください。

屋外送油管について

屋外の送油管は必ず金属配管を使用してください。
右表のシステム部材をご利用ください。
ロー付けによる配管は避けてください。

- フラックスが灯油中に溶け込み、定油面器内部の部品を損傷させ、油漏れとなる場合があります。
- 特に神戸製鋼製「Gフラックス」を使用することは避けてください。万一使用した場合は、灯油で配管内を洗い、洗った灯油は廃棄してください。

品　名	形　名
銅 配 管 セ ッ ト	VKZ-20
給 油 ア タ ッ チ メ ン ト	VKZ-02B・VKZ-04B
フィルター付コック(金属配管用)	VKZ-8K
I形・L形・T形ユニオン	VKZ-22・VKZ-8UL・VKZ-8UT

据付方法(標準据付け)

壁穴工事

[お願い]

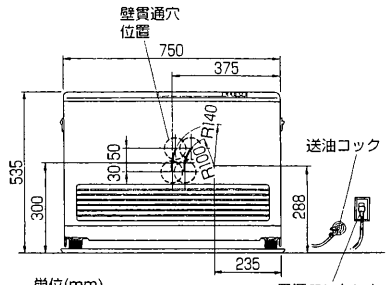
- 穴をあける際、壁内のスジカイ・電気配線・ガス・水道の配管などに当たらないところを選んでください。
- ラス網等は十分カットし、これらの金具部分に給排気筒トップが接しないよう電気的絶縁を行ってください。
  〔電気設備技術基準（第203条）参照〕
- シーズン終了時に電源プラグをはずしたり、送油コックを閉めるために、電源コンセントや送油コックが製品の裏面にかくれないようにしてください。

裏面へ 8

据付方法(標準据付け)

製品の据付位置によって壁穴位置を決めます。

● 標準給排気方式の場合、下図の位置に穴をあけます。

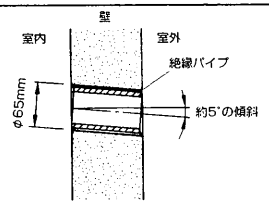


付属部品で取付可能な壁厚は220mmまでです。

● 壁厚に応じたシステム部材の選定

単位(mm)

壁　厚	システム部材	備　考
1~135	VGZ-21SP (スペーサーリング)	システム部材を使用しないと壁固定ができません
90~135	VGZ-09ST (薄壁対応給排気筒トップ)	壁密着取付けができます
220~305	VGZ-30UGM2	
305~390	VGZ-39UGM2	
390~475	VGZ-30UGM2+VGZ-39UGM2	
475~560	VGZ-56UGM2	
560~645	VGZ-30UGM2+VGZ-56UGM2	
645~730	VGZ-39UGM2+VGZ-56UGM2	



壁に穴をあけ、絶縁パイプを切断します。

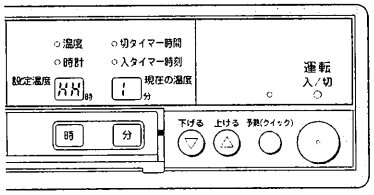
● φ65mmホールコアドリルにより室内から室外に向けて約5°の下向き傾斜で穴をあけます。(穴の直径が100mmより大きくならないよう注意してください)

● 絶縁パイプを壁の厚さに合わせて切断します。

据付け前の準備

標高設定のしかた

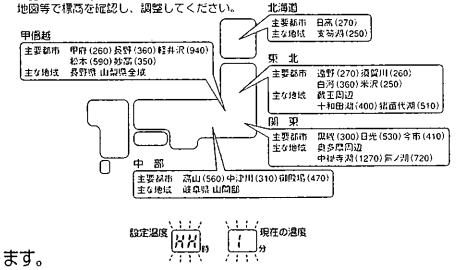
● 標高の高いところでは気圧が低く、燃焼に必要な空気が不足することを防止するために設定を行います。



本体表示部・操作部

標高設定の必要な主要都市および主な地域

※数字は標高(m)を表します。
※下記以外の山間部地域でも標高調整が必要です。
地図等で標高を確認し、調整してください。



初めて設定する場合

(1)電源プラグを差し込みます。

● 「ピッ」と音がして、「標高ランク設定」モードになります。

(2)(△)(▽) ボタンを押して下表により設定します。

標　高 (m)	標高ランク	標　高 (m)	標高ランク
0~250	1 (工場出荷時)	750~1000	4
250~500	2	1000~1250	5
500~750	3	1250~1500	6

(3)運転スイッチを一度「入」にすると設定条件を記憶します。

● 続けて使用しない場合は、運転スイッチを「切」にします。

工場出荷時
HH：「標高ランク設定」モードを表示する
1　：標高ランク(0~250m)

標高ランク設定のしかた

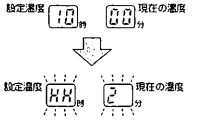
(△) ボタンを押すごとに 1→2・・・6 と変わる。

(▽) ボタンを押すごとに 1→6・・・2 と逆回りする。

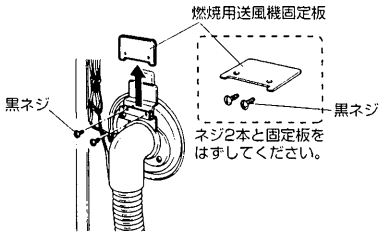
再設定する場合　(引越しなどで設定を変える場合)

電源プラグを差し込み、(チャイルドロック)○、(入タイマー)☀ ボタンを同時に2秒以上押して、「標高ランク設定」モードにする。

● 手順(2)、(3)で設定します。



● 表示部は時計表示になっています。



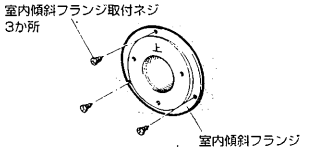
黒ネジ2本をはずし、燃焼用送風機固定板を取りはずします。

● 燃焼用送風機固定板は輸送中に燃焼用送風機の防振構造を保護するためのものです。

燃焼用送風機固定板・黒ネジ2本ははずした後不要です。

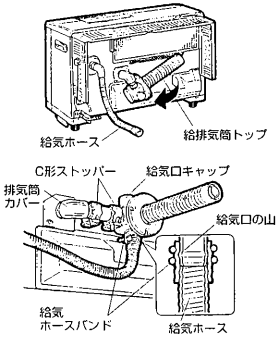
● 燃焼用送風機固定板を取付けたまま運転すると振動防止の効果がなくなり、ビビリ音などの発生の原因となります。

標準給排気工事



室内傾斜フランジを取付けます。

● 壁穴の室内側に室内傾斜フランジを室内傾斜フランジ取付ネジで固定します。
室内傾斜フランジの「上」の文字が上になるように取付けます。



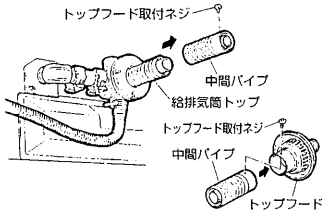
給排気筒トップに給気ホースを取付けます。

(1)排気筒を回転させ(矢印の方向に約90度)給排気筒トップを使用状態にします。

(2)給排気筒トップには給気口が2か所あります。取付けやすい給気口に給気ホースを接続します。

(3)付属の給気ホースバンドで給気口の山をまたぐように締め付けます。

(4)使用しない給気口には給気口キャップを必ず取付けます。

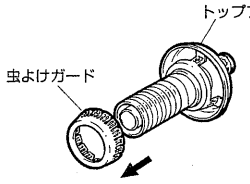


中間パイプをトップフードに付け換えます。

(1)給排気筒トップにねじ込まれている中間パイプをはずします。

(2)中間パイプに取付けられたトップフード取付ネジを一度はずします。

(3)中間パイプをトップフードにしっかりはめ込み、ネジ穴を合わせてトップフード取付ネジで固定します。

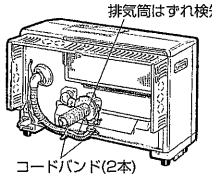


寒冷地で使用する場合

外気温が−15℃以下になるような地域では

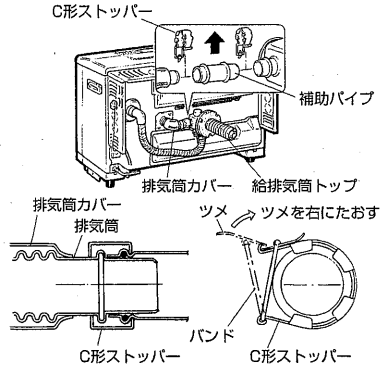
虫よけガードをトップフードからはずして据付けます。

- はずさないとガード部に霜が付着して、給気口がふさがれ、安全装置が作動して運転を停止することがあります。
- 寒冷地では、虫の侵入の可能性は少なく、虫よけガードをはずしても大丈夫です。



排気筒はずれ検知リードを固定します。

給排気筒トップに取付けてある排気筒はずれ検知リードを給気ホースにそわせてコードバンドで固定します。

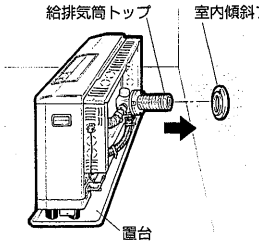


据付位置を少し左にしたい場合(40㎜程度)

(1) C形ストッパー2個をはずして補助パイプをはずします。
(2) 給排気筒トップに付いているOリングのねじれやはずれがないことを確認します。
(3) 排気筒と給排気筒トップを接続します。
(4) 接続部にC形ストッパーをはめ込みます。取付け後ストッパーがきいているか排気筒を引っ張って確認してください。

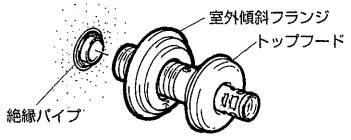
- C形ストッパーは、抜け防止と排気筒はずれ検知装置の電気的導通の役割を果たしていますので必ず取付けてください。
- 排気筒カバーをC形ストッパーではさんで付けないでください(電気的導通不良になります)

給排気筒トップの固定



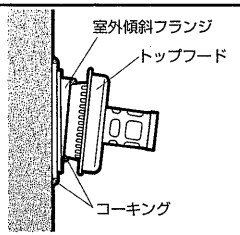
製品を付属の置台の上に据付け給排気筒トップを壁穴に差し込みます。

- 給排気筒トップのフランジ部が室内傾斜フランジに接するまで確実に差し込んでください。



室外側から絶縁パイプ、室外傾斜フランジ、トップフードを取付けます。

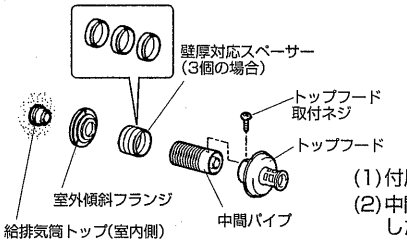
(1) 絶縁パイプと室外傾斜フランジを通します。



(2) 室外傾斜フランジを「下」印が下になるように注意して壁に密着させたまま、中間パイプを組付けたトップフードを時計方向に回し、室外傾斜フランジに密着させます。

※ 室外傾斜フランジの外周およびトップフードの外周にパテまたはコーキング材を塗布し、壁の中へ雨水が浸入するのを防いでください。

※ 室外傾斜フランジの壁へのネジ固定が必要な場合は、裏面の凹部を市販のタッピングネジで簡単に通すことができます。



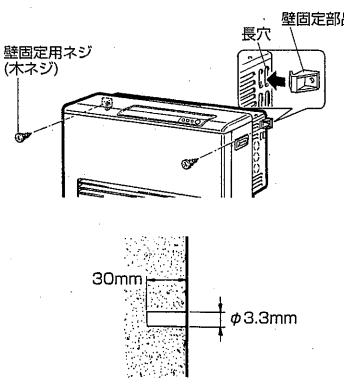
壁厚が134~81mmのとき

■壁厚と使用数量

壁　厚 (mm)	134~113	112~97	96~81
スペーサー使用数量	1個	2個	3個

(1) 付属の壁厚対応スペーサーを図の位置に挿入する。
(2) 中間パイプとトップフードをトップフード取付ネジで固定した後、時計方向に回して固定する。

製品の固定



壁固定部品により固定します。

(1) 付属の壁固定部品を背面カバー側板の長穴(縦形)に引っ掛けます。(両側)

- 長穴は4個ありますが製品と壁面が100mm以上確保できる位置で背面カバー長穴を利用します。

壁が木または厚い合板の場合

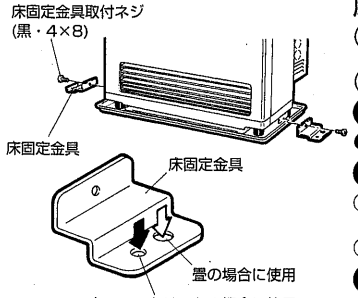
付属の壁固定用ネジ(木ネジ)2本を使用して壁固定部品を壁に固定します。

壁が石膏ボード・薄い合板・土壁・しっくい壁などの場合

① 壁にそえ木をします。
② 付属の壁固定用ネジ(木ネジ)で壁固定部品をそえ木に固定します。

壁がコンクリートの場合

① 左図のように下穴(φ3.3mm、深さ30mm)をあけます。
② 付属の壁固定用ネジ(木ネジ)で壁固定部品を固定します。



床固定金具により固定します。

(1) 付属の床固定金具を製品の左右に付属の床固定金具取付ネジ2本で取付けます。
(2) 床の種類により付属の取付ネジで固定します。

床が木の場合

- 小さい穴を利用して床固定用ネジ(木ネジ)で固定します。

床がコンクリートの場合

① 小さい穴の位置に、あらかじめ下穴(φ3.3mm、深さ30mm)をあけます。
② 床固定用ネジ(木ネジ)で床固定金具を固定します。

床が畳の場合

- 大きい穴を利用して畳用取付びょうで固定します。

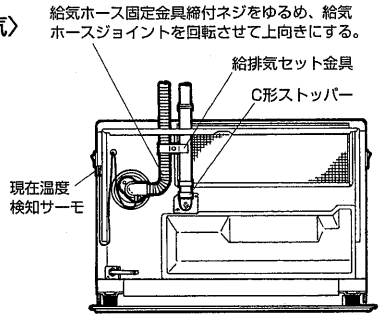
延長給排気工事について

標準給排気工事ができない場合に延長給排気工事を行いますが据付場所に応じてシステム部材の給排気セットが必要です。

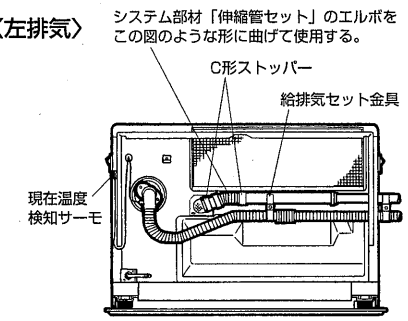
延長工事詳細については当社のシステム部材に同梱の「取付説明書」をお読みください。

上側・左側・右側への延長給排気工事要領 〈システム部材を使用〉

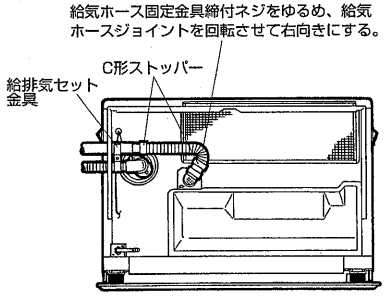
〈上排気〉



〈左排気〉



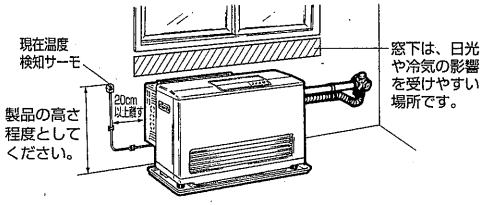
〈右排気〉



＊右排気の場合は現在温度検知サーモの移動が必ず必要です。
（右図を参考にしてください）

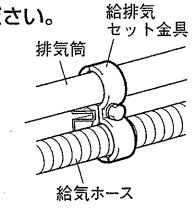
現在温度検知サーモ取付位置移動の場合

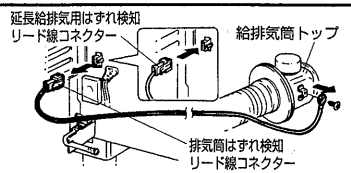
① サーモカバーを上方にスライドさせてはずします。
② 現在温度検知サーモを温風・直射日光・冷気の影響を受けない位置にカバー裏側の両面テープを利用して取付けます。
（付属の木ネジ取付けも可能です）
③ リード線は付属のリードクリップで高温部に触れないように止めます。



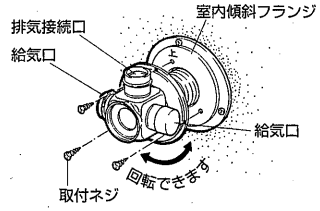
お願い

- **排気筒・給気ホースを現在温度検知サーモに近づけないようにしてください。**
（室温調節が正しく動作しないことがあります）
- **上側・左側・右側へ延長給排気工事を行う場合は、給排気セット金具を使用して給気ホースと排気筒を20mm以上離してください。**
（接触すると給気ホースが溶けて異常燃焼するおそれがあります）
- **排気筒の長さより給気ホースの長さを極端に短かくしないでください。給気ホースの長さを排気筒の長さと同等か長めにしてください。**
（異常音が発生することがあります）
- **横引き配管する場合は給気ホースを排気筒の下側になるようにしてください。**
（給気ホースが上側の場合たれて排気筒に接触することがあります）
- **可燃壁貫通するときはシステム部材のメガネ形ブッシュ（VGZ-3BU2）を使用してください。**
（使用しないと低温発火の原因になります）

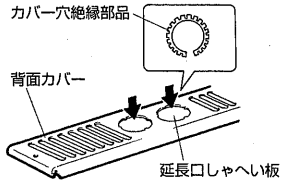




取付けられている排気筒はずれ検知リード線をはずし、付属の延長給排気用はずれ検知リード線のコネクターを差し込みます。

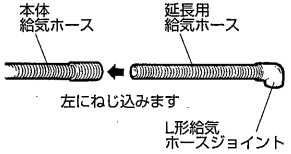


壁穴に取付けた室内傾斜フランジに、給排気筒トップを取付ネジで取付けます。



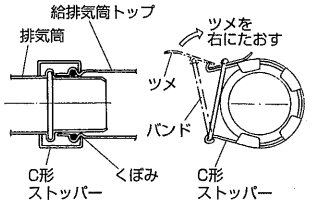
背面カバーの延長口しゃへい板を取りはずします。

- 製品に取付けたまま延長口しゃへい板をたたくと背面カバーが変形するので必ずはずして行ってください。
- 延長口の内周にシステム部材の伸縮管セットに入っているカバー穴絶縁部品を取付けてください。



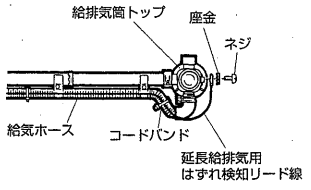
給気ホースを延長します。

- 延長用伸縮管セット（システム部材）の延長用給気ホースを接続します。
- 給排気セット金具を使用し、給気ホースと排気筒を20mm以上離してください。



排気筒と給排気筒トップを接続します。

- 差し込むときOリングのねじれやはずれがないか確認してください。
- 排気筒と給排気筒トップの接続部にC形ストッパーを差し込んで、バンドを掛けてください。
取付け後、ストッパーがきいているか排気筒を引っ張って確認してください。
- C形ストッパーは製品組込みおよびシステム部材に同梱されているもの以外は使用しないでください。



給排気筒トップに延長給排気用はずれ検知リード線の先端を、はずしたネジと座金で取付け、給気ホースにそわせて付属のコードバンドで固定します。

試運転(試運転モードによる試運転のしかた)

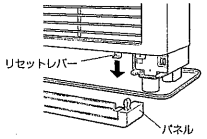
お客さまに引き渡す前に、お客さま立合いのうえ試運転モードによる運転で確認してください。

■試運転モードとは

機器を一時的に通常の運転状態より少し厳しめの条件にして運転を行い、安全装置の作動ポイントに対して余裕が確保できているか否かを確認します。
据付工事や、標高・給排気の設定などが正しく行われているかなどをチェックします。

運転準備

1.油タンクに給油します。
2.油タンクの送油バルブと給油アタッチメントの送油コックを「開」にします。
3.定油面器のリセットをします。
(1)パネルを手前に引き、はずします。
(2)リセットレバーを下へ1回下げて、元の位置に戻ることを確認します。
(3)パネルを元に戻します。
4.電源プラグをコンセント(単相100V)に確実に差し込みます。



試運転モードによる試運転チェックのしかた

運転スイッチと予熱(クイック)スイッチを「切」にします。「ひくめ運転」ボタンと「△(上げる)」ボタンを同時に2秒以上押して試運転モードにします。
※試運転モードになると表示部に「50 PO」が表示されます。

〈試運転モード開始〉

1.運転スイッチを押して「入」にします。

●運転ランプが点灯し、約4分後に燃焼を開始します。①→⑦の順にシーケンスが進み、約14分間試運転モードにより自動運転を行います。

※①から⑦の順にシーケンスが進む

チェック項目	表示部の表示 左	表示部の表示 右	表示部右(および左側の右)の内容	表示方法
① ヒートアップ	Oh	00~24	00:180℃以下 18:181~210℃ 21:211~220℃ 22:221~230℃ 23:231~240℃ 24:241℃以上	点滅
② 着火性能の余裕チェック	OA	□□	炎電流値	各モード終了の少し前に右側の表示が点滅から点灯に切換わり、点灯時にデータを読み込む
③ 着火ノッチ燃焼での異常燃焼余裕チェック	Ob	□□	炎電流値	
④ 強燃焼での異常燃焼余裕チェック	OC	□□	炎電流値	
⑤ 弱燃焼での異常燃焼余裕チェック	Od	□□	炎電流値	
⑥ 燃焼用送風機の回転数チェック	U□	□□	送風機回転数の補正値を±で表示する 例:−10	
⑦ 温風センサーの温度チェック	F□	□□	温風センサーの温度 例:F1 20=120℃	

2.試運転モード運転中に通常運転時に発生するエラーが発生した場合、その時点でエラーコードを表示し、運転を停止します。
3.試運転モードによる試運転が終了すると燃焼が停止し、全てOKの場合は表示部に「00 00」を表示します。
4.余裕が確保できていない場合は、表示部左側にチェック項目に該当する記号を表示し、右側には「11」を表示します。(例:着火性能の余裕チェックの場合「OA 11」)
複数のチェック項目に該当するものがある場合は、5秒間隔でこの表示を繰り返します。

試運転モードの解除

●運転スイッチを「切」にすると試運転モードは解除されます。
途中で試運転モードを解除したい場合は、運転スイッチを「切」にしてください。

エラー表示や余裕が確保できていない表示があった場合の処置について

1.表示部に表示されるエラー表示に従って、確認と処置を行ってください。
2.表1以外のエラー表示が発生した場合は、取扱説明書(26~28ページ)の内容に従って処置をしてください。

〈表1〉

	表示部		確認箇所	処置方法
①	E−	04	・制御回路ヒーター温度検知部が故障している。 ・ヒーターサーモが短絡故障している。	・制御回路を交換してください。 ・ヒーターサーモを交換してください。
	E−	03	・ヒーターサーモがオープン故障している。 ・気化ヒーターが断線している。	・ヒーターサーモを交換してください。 ・気化ヒーターを交換してください。
②	OA	11	・標高設定が高めに設定されていないか。 ・着火時の炎が不安定である。 ・給排短絡していないか。 ・灯油が本体まで来ていない。	・正しい標高設定をしてください。(据付工事説明書9ページ参照) ・電磁ポンプの油量が少ない。 ・給排気筒トップ周辺に障害物がないか確認してください。 ・油タンク・油配管のバルブやコックを確認してください。 ・定油面器のトリップを解除してください。
	E−	01	・放電音が聞こえない。	・点火トランスのリード線の接続を確認してください。
③	Ob	11	・標高設定が低めに設定されている。 ・給排気延長長さが長い。	・正しい標高に設定し直してください。(据付工事説明書9ページ参照) ・延長給排気工事の場合、規定(3m3曲り)以内の長さに修正してください。
④	OC	11	・給排気口に異物が詰まっている。 ・給排短絡していないか。	・異物を取除いてください。 ・給排気筒トップ近傍に障害物がないか、排気ガスが給気に吸込まれるようなよどみがないか確認してください。
⑤	Od	11	・標高設定が高めに設定されている。	・正しい標高に設定してください。
	E−	01	・炎が不安定である。	・電磁ポンプの油量が少ない。
⑥	OU	11	・給気口が閉塞されていないか。	・閉塞物を取除いてください。
⑦	OF	11	・温風吹出口を障害物が塞いでいないか。 ・対流用送風機が回っているか。 ・温風がショートサイクルしていないか。	・障害物を取除いてください。 ・対流用送風機の回転を確認してください。 ・ショートサイクルの原因を取除いてください。

〈表1に基づくチェックで原因が不明な場合の処置〉

●試運転モードチェックで余裕が確保されていないとの表示がされ、表1のチェックを行っても原因が不明な場合は、運転は可能ですが、安全装置の作動に対して余裕をもった運転状態にするため、製品の油量を表2に従って変更する処置を行ってください。

〈表2〉

	手順			表示部の表示内容
1	「切タイマー」ボタンと「ひくめ運転」ボタンを同時に押しながら電源プラグをコンセントに差込む			[50 P]
2	運転スイッチを「入」にする			[PA 0]
3	PA(電磁ポンプパルス幅)を変更する	油量を増やす場合	△(上げる)ボタンを押すごとにPAが1ずつ増える(3まで)	[PA 1]
		油量を減らす場合	▽(下げる)ボタンを押すごとにPAが1ずつ減る(−3まで)	[PA −1]

※PAが1変わるごとに油量が約4%変化します。

お客さまへの説明

1. 取扱説明書によって製品の取扱いを説明してください。
2. 保証書に必要事項を記入のうえ、保管のお願いをしてください。
3. この据付工事説明書は引っ越しなどで製品を移動する際に必要となりますので、取扱説明書とともに必ずお客さまに渡して、一緒に保管してくださるようお願いしてください。
4. ゴム製送油管はひび割れが無くても3年に1度必ず新しいものに交換していただくようお願いしてください。

製品を廃棄するときの注意

製品を廃棄するときは、必ず灯油を抜いてください。リサイクルの支障となります。

三菱電機株式会社
群馬製作所 〒370-0492 群馬県新田郡尾島町岩松800

この説明書は、再生紙を使用しています。